

第1土曜特集

アレルギー研究最前線

企画 中山俊憲 千葉大学大学院医学研究院免疫発生学

基礎研究の最前線Ⅰ：T細胞，自然リンパ球

Tpath2細胞を起点とした慢性気道炎症誘導機構——気道上皮とのクロストーク

アレルギー病態形成におけるT_{FH}細胞とT_H2細胞の関係

CD69-MyI9システムによるアレルギー性気道炎症制御とその展望

制御性T細胞によるアレルギー反応の制御

粘膜上皮細胞死による制御性T細胞数の制御

アレルギー治療に向けた誘導性制御性T細胞の応用

アレルギー病態形成におけるILC2の役割とその抑制機構

寄生虫感染モデルからみえたアレルギー病態形成

基礎研究の最前線Ⅱ：上皮細胞，炎症細胞など

気管支喘息における気道上皮細胞・樹状細胞による環境因子認識機構

膜型IgEによるB細胞記憶の形成制御とアレルギー抑制機構

最近明らかになったアレルギー炎症病態における好塩基球の多彩な役割

脂質によるマスト細胞の制御とアレルギー

微細粒子吸入とアレルギー性炎症

腸内細菌とアレルギー疾患

サーカディアンリズムとアレルギー——とくにマスト細胞活性化を中心として

アレルギー疾患のゲノム解析

アレルギー疾患研究，臨床研究

上気道アレルギー疾患における病原性Th2細胞のかかわり

ペリオスチン——アレルギー疾患における新規バイオマーカー

アトピー性皮膚炎と皮膚バリア障害

アトピー性皮膚炎の抗体治療

鶏卵アレルギーの発症予防

真菌関連喘息とその重症化機序

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(旧Churg-Strauss 症候群)における治療法の進歩

——とくに抗IL-5治療について